

大学院進学感想

杨祥龙

私は亜細亜友之会外語学院の2021年10月期生です。当時は感染症の深刻な状況のため、日本への入国は禁止されていました。そこで10月から中国の自宅で亜細亜友之会外語学院のオンライン授業を受けることになりました。2022年4月に正式に来日し、亜細亜友之会外語学院に入学し、留学生活が始まりました。私も1年以上の努力の末、筑波大学大学院生命地球科学研究科と早稲田大学大学院環境エネルギー研究科に合格しました。

◆日本語学習

日本に留学しようと思った当初は独学で日本語を勉強していましたが、いつも時間が足りていると感じていて、あまり真剣に勉強しませんでした。今思うと貴重な時間を無駄にしちゃいました。2021年10月から本格的に日本語を体系的に学び始めました。授業で先生が教えてくれた知識に加えて、自分でも復習していました。日本語には微妙な違いがたくさんあります。継続的な練習でしっかりと覚えられます。日本語能力は出願の際に必要な材料になりますので、留学するなら早めに勉強を始めて、早く日本語能力証書を取得しましょう。

◆英語学習

私が出願した際に提出した英語のスコアはTOEICですが、TOEICはIELTSやTOEFLと比べ、より簡単ですが、TOEICテストはスケジュールがタイトで問題数も多いため、慣れるまでに多くの練習が必要です。私が計画を立てて、単語を暗記し、問題集をやって、リスニングを練習しました。毎朝学校に行く前の一定時間、単語を覚えるのに使ったり、本を読んでTOEICの各パートの解答スキルを絞って学んだりして、TOEICの解答スピードを上げていきます。質問作り。試験の一か月前から時間を計って問題集を解き始め、終わった後、注意深く答えを確認し、間違った問題をノートに書いていました。また、一回だけの失敗で落ち込むことがなく、粘り強く頑張れば、必ず目的が達成できると信じなければなりません。

◆専攻の学習

日本専攻を変更したため、専門知識を0から学び始めました。最初は日本語の基礎があまりなかったので、専門的な知識を学ぶのはまだ少し大変です。専門知識を学ぶことに加えて、初期の段階で一番多くやったのは文献を読むことです。中国語、英語、日本語の文献を読んだ後、まとめて表にしていました。次に、研究計画書の作成ですが、これは最も難しい部分だと思います。初期段階で読んだ文献を通じて、学習したい方向性をいくつか見つけてから、自分が作成した表を使って、使用できる知識ポイントをフィルタリングしました。研究計画書は短期間で作成できるものではなく、常に磨き続ける必要があります。特に、私が志望した2校は筆記試験がなかったので、研究計画書が最も重要でした。大枠を作成した後は、継続的に修正していきます。

◆面試

まず一番大切なのは自信だと思うので、自分の言いたいことをしっかりと表現できると良いと思います。面接前には自分で書いた研究計画書を何度も読み返す必要があり、質問の多くは自分の研究計画書の内容です。

以上は私の学習経験と学習方法の一部です、これで皆様のお役に立つことができれば幸いです。

◆最後

在学中の成績が評価され、卒業式で「亜細亜友之会外語学院一級奨学生」を受賞することができました。亜細亜友之会外語学院の先生方には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。あらゆる面でこのような素晴らしい学習の場を提供してくださった校長先生と石川先生に感謝します。私の人生でたくさん助けてくれた申先生に感謝します。大澤先生には、願掛けの際に色々な資料の準備や確認を手伝っていただき、ありがとうございました。岩崎先生には、何度も応募書類を見直していただき、何度も綿密な面接練習をしていただき、ありがとうございました。私の日本語の勉強を手伝ってくれた宮原先生、久保先生、日比先生、棚橋先生、福原先生に感謝します。ご激励と鞭撻に改めて感謝いたします。